

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

名称：座間市立児童発達支援センターサニーキッズ	種別：児童発達支援センター
代表者氏名：施設長 田中 誠一	定員（利用人数）： 35名
所在地：〒252-0002 座間市小松原1-45-21	
TEL：046-259-7121	ホームページ： http://agape-jcws.com
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2023年10月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）： 運営法人：社会福祉法人日本キリスト教奉仕団 設置主体：座間市	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員 22名
専門職員	（専門職の名称） 名
	理学療法士 1名
	言語聴覚士 1名
	作業療法士 1名
	臨床心理士 1名
	計画相談員兼医療的ケア児コーディネーター 1名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	指導室 5室
	活動部屋 4室
	相談室、医務室、厨房、給湯室、研修室、子どもトイレ、みんなのトイレ（シャワー設備有）、トイレなど

③ 理念・基本方針

（基本理念） 「共に生き、共に歩む」理念のもと、子ども・家庭を応援し、あたり前の育ち／地域での暮らしを支えていく
（基本方針） （1）一人ひとりの発達や行動特性に合わせた、専門性の高い支援を多職種が連携して行います （2）地域に根差した支援を行うなかで、子ども・家庭の思いを大切にし、安心して過ごしていけるよう伴走した支援を行います （3）ライフステージにあわせ、身近な地域で支援を受けながら暮らしたいけるよう、地域づくりに取り組みます

③ 施設・事業所の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none">・0歳～就学前を対象とする児童発達支援事業（通園）では、専門職（PT, OT, ST, CP）の見立てや日常の様子から発達や行動特性を捉え、一人ひとりに合った環境提供を行い、安心して様々な経験を重ねていけるよう支援しています。 保護者に向けては「気づき」を起点として、緩やかに子どもたちの現状を受け止め、必要な環境への理解を深めるとともに必要な支援を受けながら子どもの「過ごし」を支えていけるよう支援しています。・子どもたちの過ごし方が地域の中に広がるよう、移行期の引継ぎや併行通園での連携、保育所等、訪問事業の実施などを行い、地域の支援者が安心して子どもたちや家

庭の「過ごし」を支えていけるよう支援に努めています。

- ・外出が困難な重度の障害がある子どもに対し、居宅を訪問して様々な活動を提供するなかで子ども自身が「楽しい」と感じられるよう支援しています。
- ・ライフステージの変化に伴うバトンが円滑につなげられるよう、相談支援事業実施や医療的ケア児等コーディネーターの配置を行っています。
- ・重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービスや未就学児を対象とする日中一時支援など、安心安全な居場所の提供を行い、子どもや家庭を支援しています。
- ・職員が横断的に関わりながらセンター内の複数の事業を運営することで一体感のある取り組みを実現しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年 6月 9日（契約日） ～ 2026年1月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもの健全な成長・発達とともに、自立と安定した社会生活を送るための支援を実践しています

サニーキッズでは、保育士をはじめ心理士や理学・作業療法士、言語聴覚士など様々な専門職が連携し、ひとり一人の状況に応じたきめ細やかな療育支援を行っています。

子どもの支援にあたっては、緻密なアセスメントと専門的視点を踏まえた個別支援計画に基づき、心身の成長・発達と機能の回復・向上に努めています。「構造化」の手法を用い、絵カードで日課や活動内容、手順等を示すことで、子どもが視覚的に理解・整理し、行動に見通しが持てるようにしています。

また、子どもの自立と安定した地域生活に鑑み、社会性の習得や就園・就学に向けた支援も行っています。季節行事やプール遊びなど、クラスや年齢を問わず子ども同士が相互に関わる場を設定するほか、近隣の保育園との交流保育を通じて協調性を育む支援も行っています。散歩時には、信号の意味合いや横断歩道の歩き方など、社会体験とともに交通安全を学ぶ機会も設けています。小学校での生活を想定し、実際に館内の医務室を使用して、園医が身体測定や内科・歯科健診を実施するなど、様々な状況に順応し柔軟に対処できるよう、工夫を凝らしています。

環境面においても、療育室は十分なスペースとともに、必要時以外は極力備品を置かず、扉の窓も外部の視線等が気にならないようマジックミラーにする等、より安全な環境下で遊びやプログラムに集中できるよう配慮しています。理学療法及び作業療法の訓練室や、スウィング遊具を設置した遊戯室などに加え、クールダウンスペースも整備しています。

◆各家庭の養育力や発信力を高める保護者支援にも力を入れています

サニーキッズでは、保護者が子どもの障害を理解し、より正確な認識の下で地域生活に順応していくことができるよう、保護者支援にも力を入れています。

毎月1回参観の機会を設け、保護者の悩みや相談に応じるとともに、子どもの現状を共有し日常場面に活かせる関わりや留意点等を説明しています。家庭生活との連動性にも配慮し、身近な素材を活用して手作りした補助具の紹介なども行っています。

また、子どもの就園・就学に際し、関係機関同士で子どもの詳しい状況を共有するためのツールとして「サポートブック」を整備しています。「サポートブック」は独自の様式を用い、子どもの生活歴や既往歴などのほか、心身の発達と苦手やこだわり・

行動に加え、子どもの個性や長所、落ち着くこと等も具体的に記載して、実生活に活かすことができるよう工夫しています。また、作成の過程を通じて、保護者が子どもの状況を正しく理解・把握することで、各々の養育力や発信力の向上に繋がるようにしています。

さらに、保護者向けの勉強会として「お話タイム」を定期的を開催し、それぞれの職種や専門職が講師となり、直接の対話を通じて支援に関する知識や制度・社会資源等を学べる機会を確保するとともに、先輩ママとの交流会も定例開催し、困りごとや体験談の共有を通じて、保護者同士の交流促進と相互に助け合える関係性の構築も支援しています。

◆座間市の療育の中核を担う指定管理施設として、今後一層の地域支援機能の充実化が期待されます

サニーキッズは、座間市の療育の中核を担う児童発達支援センターとして、2023年の設置以降、座間市の障害児福祉計画や療育・発達支援の基本方針等に基づく事業運営を行っています。また、これまでの長きに亘る児童発達支援事業のノウハウを生かし、複数の事業を併設して、各々のこども・保護者の状況に応じたきめ細かな個別支援を実施しています。

なお、座間市の指定管理施設として、利用に関する相談や実際の利用は市の担当課を経由する流れとなっていることから、市民にとってより身近な専門機関となるよう、障害児療育の普及啓発など今後さらなる情報発信が必要と捉えています。そのほか、医療的ケア児の支援に向けた体制整備やコーディネーターの育成など、新たな取り組みも構想しています。

座間市の療育方針や障害児施策と協働し、今後一層の地域支援機能の充実化の推進に向けた取組が大いに期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

多様な視点から構成された自己評価表に全職員が取り組むことで、現状振り返りだけではなく職員の認識についても確認することができました。また約5カ月にわたる準備を通じて理念や方針をはじめ、具体的な業務マニュアル等について「内容の見直し」や「周知・共有に向けた整備」に取り組みをすすめています。訪問調査では、自事業所の取り組みに新たな気付きや、強みと課題を知る機会をいただきました。第三者評価の受審経過を通じて、質の向上に向けた取り組みは開始されており、今後は評価結果を事業所内で共有するとともに更なる取り組みへとつなげていきたいと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり